自転車購入の手引き 2021 年度版

文責　カワイ

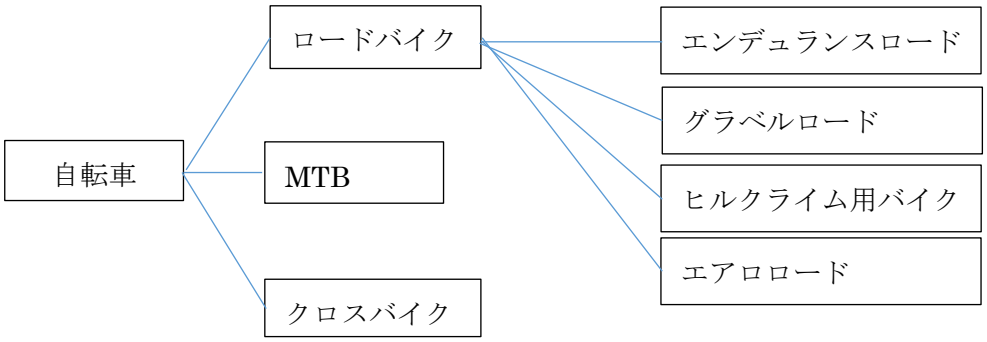
はじめに

チャリ部に入るにあたって、皆さんには自転車を購入してもらうことになります。選んだ自転車は NUCC、ひいては大学生活を共に過ごす相棒になるはずなので、しっかり吟味して選んでほしいと思います。しかし自転車は思った以上に奥が深く、選ぶことに難儀することでしょう。この資料は僕が新入部員だった時に知っておきたかった情報をまとめて掲載しています。構成としては、まず第一部では押さえておきたい知識の紹介。第二部ではオススメな自転車をいくつか載せてあります。最後に番外として、ペダルについてもふれてあります。これを読めば自転車選びにもう迷わないはずなので、一通り目を通してみてください。

第一部　知っておきたい自転車の知識

自転車の分類

一口に自転車といってもその用途に合わせて様々なものが存在しています。厳密な定義があるわけではありませんが、大体以下のような分類ができます。



ロードバイク

下に曲がったハンドルとニョッキと出た角が特徴的な自転車。皆さんが競技用の自転車といわれて思い浮かべるものがこれだと思います。前傾姿勢をとることで速く、また手を様々な場所に置けることで長く乗ることができます。ロードバイクも様々な種類があります。

- エンデュランスロード
  長い距離を走ることに重点を置いたロード。やや起き気味なポジションとちょっと太めなタイヤがはけることが特徴。メーカーによっては路面からの衝撃を吸収する特殊な機能を持たせていたりします。

- グラベルロード
  グラベル(砂利道)を冒険するために作られたロード。ロードとは思えないほど太いタイヤが履けるのが特徴。前後のダボ穴に加えてボトルケージ穴が各所に設けられていることが多く、装備をたくさんつけられます。最近になって出始めた自転車ですが、NUCC の活動内容と非常にマッチしていてオススメです。

- ヒルクライムバイク
  坂をとにかく早く登っていくロードバイク。とっても軽量なのが特徴。レース用の機材でダボ穴がないことが多いのであまりオススメしません。

- エアロロード
  風を裂き、最速で駆ける自転車。これもレース用に特化しているのであまり気にしなくて大丈夫です。

MTB(マウンテンバイク)

オフロードを走るためのバイク。衝撃を吸収するための太いタイヤとサスペンションフォークというものがついているのが特徴。またフレーム自体も非常に頑丈に作られています。しかしロードやクロスと比べると進みが遅く、ツーリング向けではないです。オフロードをメインにしたい方はいいかも。

クロスバイク

ロードバイクと MTB を混ぜた(クロスした)ことで誕生したバイク。フラットなハンドルをつけることで誰でも乗りやすく、ロードバイクに近いスピードを出せるのが強みです。NUCC ではあまり人気がありませんが、総じて価格がこなれているので選択肢に入れてみて欲しいです。

自転車の素材

自転車の素材もいろいろありますが、正直どうでもいいです。自分が買った自転車がどれなのか見ておきましょう。

- クロモリ
  鉄に色々混ぜたもの。細身でクラシックな見た目が特徴的な自転車で、乗り味としては柔らかいことが多いそうです。

- アルミ
  自転車の素材としてはこれが多い気がします。安価かつ軽量に仕上げられるのが特徴。乗り味としては硬めなんだとか。
- カーボン
  現在、自転車に使われている素材の中で最も優れているとされる素材。軽量で、自由な造形ができるのが特徴。乗り味は様々だが値段は高い。この素材を使った自転車はレース用ばかりなのであまりオススメはしません。

ここからは規格の話になります。

ダボ穴

チャリ部の自転車選びにおいて最も重要なポイントはこれです。ダボ穴というのはキャリア(荷台)をつけるための穴のことで、これがないと画像のようなバックがつけられません。逆に言えば、これがあれば後は正直何でもいいです。機材の差は筋肉で補えるので。

(↓これが最重要ポイント、ダボ穴)

(↓このねじ穴を使ってキャリアをつけ、そこにバックをつける)

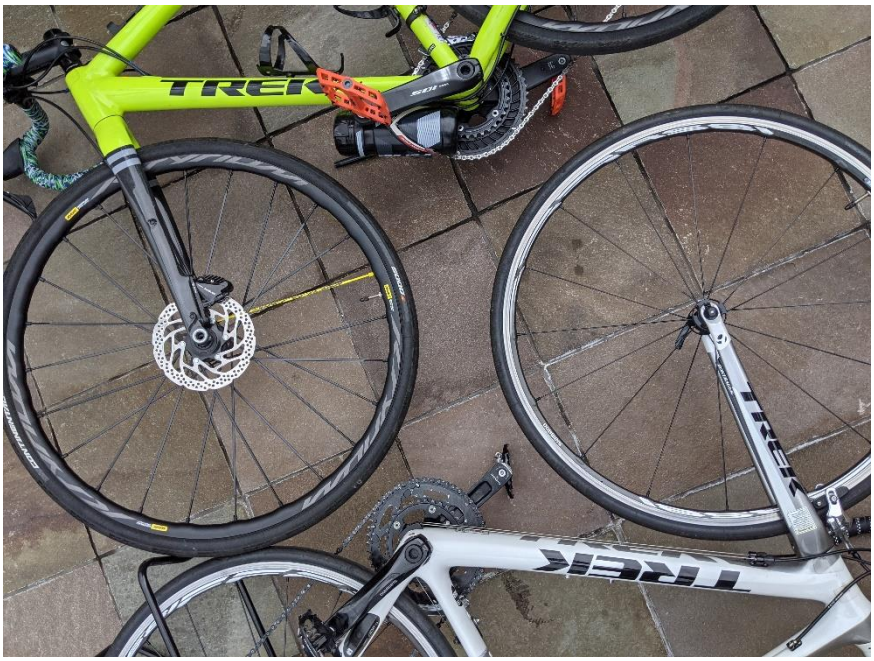
コンポーネント(ブレーキ)

ブレーキの規格がここ 3、4 年で変わってきました。ブレーキは命を預ける大事なパーツなのでしっかり規格を見ておきましょう。新しく買う場合はおそらくディスクブレーキになると思います。

- ディスクブレーキ
  最近主流になった規格。ホイール真ん中あたりについたディスクローターと呼ばれる金属板を抑えることで止まる仕組み。もともと MTB に使われていたもので、雨でも止まりやすいのが特徴。ディスクブレーキもいろいろ種類があります。
  - 油圧ディスクブレーキ
    ワイヤーを引くのではなく、オイルの押し引きによってブレーキをかける仕組み。車やバイクにも用いられているブレーキです。軽く引くだけでガツンと効きます。オススメしたい規格ですが、ロードバイク系だと 16 万円程度出さないとついていないので予算と相談してください。
  - 対向式メカニカルディスクブレーキ
    ワイヤーを引くことで両側からパッドが押し出されブレーキがかかるタイプ。
  - 片押し式メカニカルディスクブレーキ
    対向式と異なり、片側からパッドが押し出されるタイプ。安価だが調整がシビアなのが難点。

- リムブレーキ
  少し前まで主流だった規格。ホイールの外周部を抑えることで止まるタイプ。リムブレーキ搭載のモデルは価格が控えめになっていることが多いです。

  (↓上が油圧ディスク、下がリムブレーキ)



スルーアクスル or クイックリリース

フレームとホイールをつなぐ棒の規格のことで上のブレーキの規格と一緒に変更された部分。よっぽど大丈夫だが、ディスクブレーキ×クイックリリースの人はブレーキとディスクローターが擦ってしまう現象に注意しよう。あと面倒なのが前はスルーアクスルなのに、後ろは QR のタイプ。輪行の際、後ろは手で外せるのに、前を外すために結局工具がいるという謎仕様だったりする。

- スルーアクスル
  ディスクブレーキだとこれが主流、太いシャフトをねじ込むタイプでホイールがずれない。輪行する際にちょっと手間がかかる。

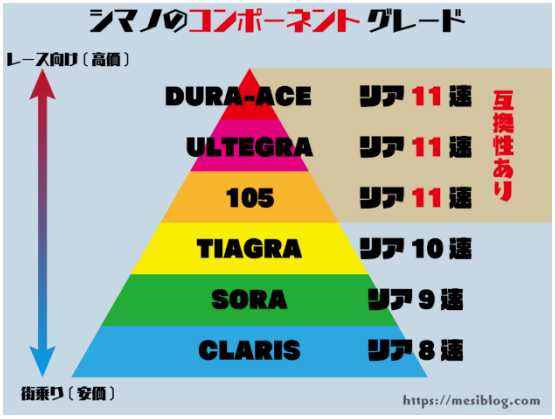
- クイックリリース
  細いシャフトが乗っかるような形になるタイプ。ホイールの脱着が容易。クロスバイクはディスクブレーキでも基本的にはクイックリリース。

(↓上がスルーアクスル、下がクイックリリース)

コンポーネント(駆動系)

ここでいう駆動系とはクランク、チェーン、シフター、リアディレイラー、フロントディレイラーのこと。変速と進む機能をつかさどっている部分だと思ってもらえれば十分です。このコンポ類は、日本のシマノという企業のものがついていることがほとんどです。コンポにはグレードがいくつか用意されていて、グレードが高ければ軽量で剛性が高く、またギアの段数が増えますが値段もお高くなっていきます。あとからお金をかければ変更ができますし、チャリ部的にはグレードはあまり気にすることではないですが、ギア比と呼ばれるものにだけ注意してほしいです。

- ロード系コンポ
  ロードバイク一般についているコンポーネント。グレードは上からデュラエース、アルテグラ、105、ティアグラ、ソラ、クラリスとなっています。



- グラベル系コンポ
  1年前ぐらいに爆誕したコンポ類。グラベルロードに最適化されたコンポ類で、特徴としてはギア比が軽く、チェーンスタビライザーと呼ばれる機能がついており、オフロードでもチェーンが外れにくくなっています。グレードは上から GRX800、GRX600、GRX400。

- MTB 系コンポ
  クロスバイクと MTB はこの分類のものが使われています。フラットバーに対応しています。グレードは上から XTR、DEORE-XT、SLX、DEORE、ALIVIO、ACERA、ALTUS、Tourney の順番です。DEORE 以上が純 MTB 用で、それ以下がクロスバイクについているイメージです。

ギア比

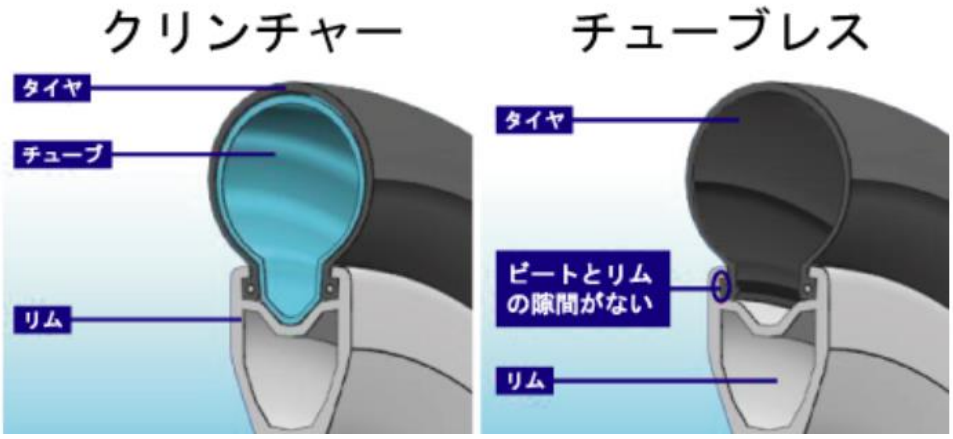
クランクを一周まわした際にホイールが何回転するかを表したもの。ツーリングの際は大荷物を自転車につけることになるので、軽めなギア比があると押さなくて済みます。脚力によって異なりますが個人的には、1.0 程度まで下がると安心だと思います。例えば Domane AL 2 Disc というモデルはカタログスペックが以下のようになっていて、

*クランク	Size: 44 Shimano RS200, 50/34 (compact), 165mm length		
	Size: 49, 52, 54 Shimano RS200, 50/34 (compact), 170mm length		
	Size: 56, 58 Shimano RS200, 50/34 (compact), 175mm length	カセット（スプロケット）	Shimano HG31, 11-32, 8 speed

これだとギア比は最大で 50/11≒4.5、最小で 34/32≒1.06 という感じになります。

チューブレス対応 or 非対応

ホイールの規格のことです。通常はタイヤの中にチューブを入れて運用するのですが、最近になってタイヤとホイールだけで空気を保持する、チューブレスというものが登場してきました。シクロクロス(調べてみてください)という競技ではこのチューブレスの方が走りやすいです。チャリ部もシクロクロスに参加している人が結構いるので、興味があって出てみたい方はチューブレス対応のモデルを買いましょう。ちなみにホイールの規格なので、課金することで後から対応モデルにすることもできます(値段は 2 万ぐらいからです…)



(↑チューブレスタイヤは基本、後から購入になります)

タイヤクリアランス

タイヤがどれくらいの太さまで入るのかという指標。ツーリングだけなら特に気にしなくても大丈夫。シクロやグラベルもやりたいなら 700×35c まで入るなら安心です。

第二部　選び方とオススメの自転車

自転車の選び方

自転車の選び方ですが、有名どころのメーカーからダボ穴がついている自転車で、かっこいいと思うものをいくつか選びましょう。そのあと値段やら自転車の規格やらで絞っていくのがいいと思います。個人的優先度としては、

ダボ穴→値段→ブレーキ→ギア比→
チューブレス対応かどうか→タイヤクリアランス→その他

の順番で見ていくのが良いと思います。(諸説あり)

オススメ自転車

幅広い値段と多くメーカーを載せてみました。こうしてみるとメーカーごとに特色が出ていると思います。イケてるデザインのものがあれば、そこのメーカーのバイクを漁ってみましょう。

- グラベルロード

JAMIS　RENEGADE　A1　　¥109,890(税込み)

ダボ穴＋たくさんのマウント。ブレーキは片押し式だが、ギア比は最小で 1.0 まで下がり、チューブレスにも対応している点が優秀。タイヤクリアランスは調べても出てこなかったので不明だが、初めから 37c がついているのでかなり広いはず。ディスクブレーキだが前

後クイックリリースなことは知っておきたい。

TREK　Domane AL 2 Disc　　¥105,000(税別)

ダボ穴あり、対向式メカニカルディスク、ワイドなギア比、チューブレス対応ホイール、タイヤクリアランス 35c まで、前後スルーアクスルと高水準なスペックを備えていて 11 万円台なナイスな 1 台。強いて言えば、フロントフォークにダボ穴がない点とクランクだけグレードが落としてあることぐらい。

Cannondale　　Topstone4　　¥11,5000(税別)

前側の変速機を取っ払ったフロントシングルなグラベルロード。コンポーネントはシマノ社のものではなくマイクロシフトという会社のもの。フロントシングルはグラベル系ではマイナーだが使っていた先輩曰く、「フロントシングルは、いいぞ」とのこと。ダボ穴あり、ブレーキは片押し式メカニカル。ギア比は 1×10 速だが 0.83～3.63 なので十分だろう。チ

ューブレス対応、前後スルーアクスル、クリアランスは最大 42c だと思われる。

FUJI　JARI 2.3　　¥120,000 (税別)

クロモリなグラベルロード。この JARI2.3 はツーリングに特化しているようで、ケーブルをわざと外に出す、BB を BSA 規格にする、担ぎやすいようにパッドが仕込んである、クランクの歯数を小さくすることでかなり軽いギア比を実現している、ダボ穴に加え多くのマウントを備えている、など随所に工夫が見られる。初めから高級タイヤがついているのも○。ブレーキは(たぶん)片押し機械式、クリアランス MAX45c、チューブレスには非対応で前後スルーアクスル。

TREK　Domane AL 4 Disc　　¥159,000 (税別)

上の AL2 の上位グレード、コンポーネントが Tiagra で統一され、ブレーキも油圧ディスク

になる。予算が合えばこちらをオススメしたい。

Bianchi Via Nirone7 ALL ROAD　¥168,000(税別)

チェレステカラーが有名なビアンキのグラベルロード。コンポには grx400 シリーズを主に採用している。ダボ穴あり、油圧ディスクブレーキ採用、軽めのギア比、チューブレス対応、クリアランスは 40c で前後スルーアクスルという優等生なバイク。ただ NUCC の２年生でこのバイクを買った人が 2 人いるので被ってしまうのが難点。

- エンデュランスロード

Cannondale　　Synapse Disc Sora　　¥121,000(税別)

ロングライド向けだがしっかりダボ穴がついているバイク。ブレーキは対向式メカニカルで、ギア比は最小 1.0 まで。上のグラベルロード系とは異なりクリアランスは狭い(多分 32c)。前スルーアクスル、後ろ QR だがどちらも工具なしで外せるタイプ。チューブレス非対応。

オフロードは厳しいかもしれないが、オンロードではグラベル系のバイクより速く、長く走れるはずだ。

SPECIALIZED　ALLEZ E5 ELITE　　¥170,500(税込)

エンデュランスというよりヒルクライムバイクかもしれない。グラベルロードは大体 10kg を超えてしまうがこれは 8.6kg。ダボ穴あり。ブレーキはリムブレーキだが、駆動系コンポはクランクを除き 105 シリーズで、ギア比もほぼ 1.0 まで下がる。意外なことにチューブレス対応だが、クリアランス的にオフロードはきつい。速さを求める人にはオススメな一台。

FELT　　FR30　　¥208,000 (税別)

ザ・ロードバイクという感じのバイクでダボ穴がない。20 万円台だとダボ穴付きのロードを探すのは難しくなってくる。コンポはシマノ 105 シリーズでギア比は 1.2 までしか下が

らない(荷物を積まないならこれで十分だったりする)。油圧ディスク搭載、クリアランスは28c まで、チューブレス対応。20 万円台のバイクと FELT というメーカーがあることを教えたくて掲載しましたが、やっぱりダボ穴がないのはきついのでおススメしません…

- MTB

Giant　　Talon 0　　100,000(税別)

コスパ最強な台湾メーカーGiant の MTB。ダボ穴がついており、ブレーキは MTB らしく油圧ディスク。ギア比は山道を走ることを考えてあるので、めちゃくちゃ軽い。もしかすると下りで重いギアが不足するかもしれない。1×12 速の Deore グレードのコンポがついておりサスペンションは 100mm トラベル。チューブレス対応のホイールなのかは不明。オフロードをメインにしたいならアリなモデル。

Kona　　KAHUNA　　¥149,600（税込）

カナダのメーカーKona の MTB。このメーカーはオフロード系が強いイメージです。ダボ

穴あり、油圧ディスク、コンポ deore6100 系ですが、上の Talon0 と異なり、29er というでかめなタイヤを履いており平地が速く走れます。初めからチューブレスタイヤを履いているのもすごい。サスペンションのトラベル量は 110mm。

MERIDA　　BIG.TRAIL 400　　¥153,890（税込）

台湾メーカーであるメリダのトレイルバイク。一見するとダボ穴がなさそうだが、キャリアが装備できるらしいので、何か特別なものをつけて対応するのだと思われる。上二つと同じ Deore グレードのコンポがつくが 10 速。代わりにドロッパーシートポストと呼ばれるボタン一つでサドルを上げ下げできる機能が付く。さらに前後 boost スルーアクスルと呼ばれる最新の規格になっているのがポイント。よりオフロードへ特化したいならこちらがよさそうだ。もし購入を検討しているなら、本当にキャリアがつけられるのか確認してほしい。

● クロスバイク

MARIN　　DSX1　¥82,500（税込）

クロスバイクだけどかなり太いタイヤが履ける、グラベル然としたバイク。ダボ穴あり、油

圧ディスク、前後スルーアクスル、ギア比は 0.82~3.63 で優秀。いいタイヤがついているが、残念ながらチューブレス対応ではない。クリアランスは不明だが初めから 45c のタイヤがついているのでまず困ることはない。変わり種なバイクだが、この価格では信じられないほど性能が高いと思う。

COLNAGO　　Porta　¥79,000（税別）

COLNAGO はイタリアのメーカー。イタリアらしくオシャレなデザインをしたバイク。ダボ穴あり、油圧ディスク、最小 1 を切るギア比。チューブレスは多分非対応、クリアランスは不明だが初めから 32c のタイヤがついている。

TREK　　FX 4 Disc　　¥102,000（税別）

クロスバイクの中ではかなりお高めなバイク。しかし値段だけのことはあり、そこそこの MTB にしか付いていないはずの Deore グレードのコンポが使われている。ダボ穴あり、

油圧ディスク、フロントシングルだがギア比は 0.82~3.63 と幅広い。チューブレス対応でクリアランスは明記されていないが初めから 35c のタイヤがついている。

番外編　ペダルを買っておこう

スポーツ自転車にはペダルがついてこないことがほとんどです。これはペダルにもフラットペダル、SPD、SPD-SL の３種類が存在しているからです。どれを使うか人によって異なるので、メーカーは、「じゃあ、ペダルと靴は自分で用意してね」という感じでペダルをつけていません。このことを知らず自転車を買った先輩は、「ペダルいらないです。(強気)」と言って、チャリを押して家まで歩いたんだとか…。
僕もよく分からないまま 7000 円近くするペダルを買い、結局別のペダルを後になって使っています。そんな後悔からおすすめのペダルについてまとめてみました。

基本的に…

<u>初めに買うのは両面フラットペダルがオススメ！</u>

です。理由としては、キャンプツーリングではランニングシューズを履くので、選択肢として両面フラットペダルか片面 SPD 片面フラットのペダルしかありません。しかし片面 SPD は乗り降りするたびに正しい踏み面に合わせなくてはならず、使いづらいと思います。どちらでも使えるといえば聞こえはいいですが、要するに中途半端なやつなので最初の選択肢としてはやめておいた方が無難です。僕はこの片面 SPD を買いましたが、現在では使っていません…

オススメペダル

SHIMANO　　PD-EF202　　¥4,054（税別）

シマノのフラットペダル。この値段でもアルミニウムボディを採用しており、高級感がある。

MKS　LAMBDA　　¥4,800(税別)

日本のメーカーから MKS。吸盤みたいなグリップが特徴。大き目なペダルで踏みやすいのが〇。アマゾンで 3400 円とカタログよりもお手頃に手に入る。

MKS　ALLWAYS　　¥6,800（税別）

MKS のハイエンドなペダル。トリプルシールドベアリングというものを採用しており、めちゃめちゃグルグル回る。MKS のペダルは低価格帯からラインナップが豊富でどれも性能が高いそうなのでおススメです。